

平成30年度各会計決算認定案を認定
令和元年度補正予算（総額4億5,782万8千円）を可決

12月
定例会

令和元年第3回12月定例会は12月3日から12月24日まで開催され、市長提出の議案57件を審議し、最終日には、議案などの採決を行いました。

また、議員15人が議案質疑と一般質問を行いました。発言の要旨は、会派別に4ページから9ページに掲載しています。



自民クラブ

堀江 幸二 議員



- (一般質問)
- 1 子どもたちに命の大切さを伝える教育について
 - 2 議員定数及び議員報酬に対する市長の考えについて
 - 3 小松地区における水源確保について

全ての子どもたちが命を大切にすることを！

問

近年、高齢者の運転が原因で子どもが交通事故

故に巻き込まれ死亡したり、誘拐などにより命を落としたりする事件が多く発生している。こうした中、子どもたちに命を大切にもらうため、就学前から中学校までの間に

において、具体的にどのような教育を行っているのか。

答

幼児期における教育・保育は、子どもの健全

な心身の発達に努めながら、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な取組となる。よって、保育所、幼稚園及び認定こども園では、日常の教育・保育で子どもたちに生命の大切さを理解できるように、身近な動植物に直接触れる体験や「うまれてきてくれてありがとう」「おかあさんがおかあさんになった日」などの家族を大切に思う絵本を読み聞かせるなど、遊びも通して学習を行っている。

小・中学校では、道徳科で「いのちがあつてよかった」「お母さんへの手紙」「キミはあちゃんの椿」などの教材を通して、人間の生命の尊さについて考えを深めており、全学年を通じて生命の尊さについて自覚を深められるよう指導している。

また、特別活動では、家族のかたに子どもが生まれてきたときの喜びや感動を手紙に書いてもらい授業の中で読ん



乳幼児との触れ合いを通して命の大切さを学ぶ

だり、子育て支援施設と連携して指導員を招聘し実際に乳幼児と触れ合ったりする学習を行っている学校もある。

更に、理科や保健体育科、技術家庭科などの学習においても、生命倫理に関わる現代的な課題を取り上げ、話し合いながら多様な考えを交流することによって、生命とは何か、その尊さを守るためにはどのように考え行動すればよいかなど、生命尊重への学びを深める学習活動を通して仲間づくりを進めている。

今後とも幼児・児童・生徒の発達段階に応じて、一人一人に自他の生命を大切にすることや態度を育てていきたい。

坪井 剛 議員



- (一般質問)
- 1 本市を取り巻く諸課題に対する市長の考えについて
 - 2 教育行政について

任期最終年を迎えた市長の所信表明を！

問

市長はこれまでの3年間、ワクワク度日本一

の西条を目指し「市民主役の西条」「住みたい西条」「市民と進める行財政改革」「夢が持てるまち西条」「つながり広がる西条」の5つの基本政策を推進し、チーム西条一丸となつて全員参加型のまちづくりに進まされ、精力的に市政運営のかじ取りを担ってきたと思うが、これまでを振り返ってどう感じるか。また、任期残り1年をどう取り組んでいくのか。